

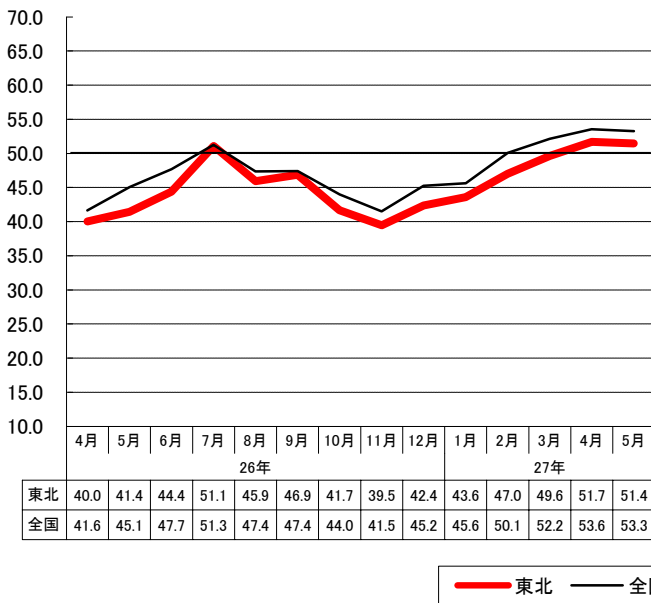
公益財団法人東北活性化研究センター  
 「内閣府 景気ウォッチャー調査 平成27年5月東北分  
 (新潟を含む東北7県)」について

公益財団法人東北活性化研究センター(会長:高橋宏明・東北電力(株)取締役会長)は、このほど、「内閣府 景気ウォッチャー調査 平成27年5月東北分(新潟を含む東北7県)」について、とりまとめましたのでお知らせいたします。

### 1. 現状判断(3か月前との比較、方向性)

現状判断DI「51.4」(▲0.3)は、6か月ぶりに前月を下回ったものの、景気判断の基準となる50を2か月連続で上回った。

現状判断DIの推移



・家計動向…消費税増税後の反動減の影響が薄れ、コンビニ、都市型ホテル、家電量販店等のDIに改善がみられた。DIは「53.0」(+1.4)と6か月連続で前月を上回り、基準値50を2か月連続で上回った。

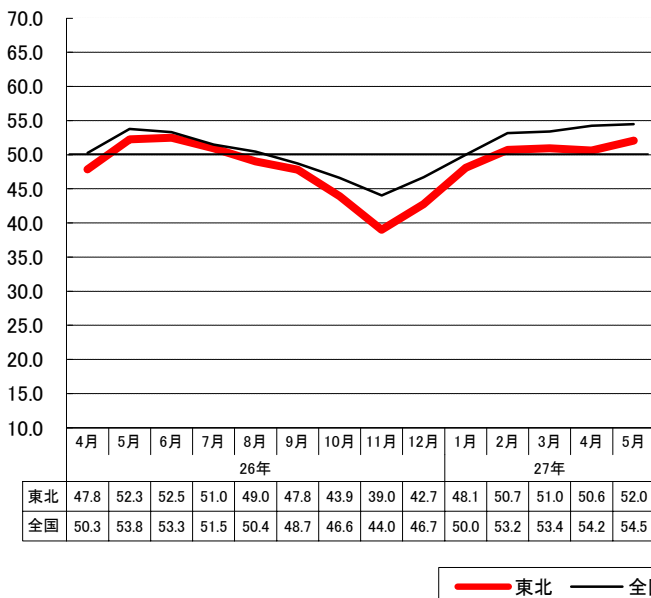
・企業動向…製造業、非製造業、共にDIが低下している。特に、製造業では低下の業種が半数を超えている。DIは「46.4」(▲6.6)と6か月ぶりに前月を下回り、基準値50を4か月ぶりに下回った。

・雇用動向…DIは「51.1」(+1.1)と2か月ぶりに前月を上回り、3か月連続で基準値50以上となった。

### 2. 先行き判断(2~3か月先の見通し、方向性)

先行き判断DI「52.0」(+1.4)は、2か月ぶりに前月を上回り、景気判断の基準となる50を4か月連続で上回った。

先行き判断DIの推移



・家計動向…コンビニ、乗用車販売店、美容室等、小売関連とサービス関連でDIが改善している。一方、飲食関連、住宅関連ではDIが低下している。DIは「52.8」(+2.1)と2か月ぶりに前月を上回り、基準値50を4か月連続で上回った。

・企業動向…製造業のDIが前月から横ばいであるが、非製造業では、若干の低下がみられる。DIは「50.0」(▲1.2)と2か月ぶりに前月を下回ったものの、2か月連続で基準値50以上となった。

・雇用動向…DIは「51.1」(+2.2)と、2か月ぶりに前月を上回り、基準値50を2か月ぶりに上回った。

## <参 考>

### ■D I の推移※

#### (1) 現状判断 (方向性) D I

	26年										27年				
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	
東北現状	40.0	41.4	44.4	51.1	45.9	46.9	41.7	39.5	42.4	43.6	47.0	49.6	51.7	51.4	
家計動向関連	35.9	37.8	43.5	49.8	44.8	46.2	40.2	38.6	41.3	42.5	46.0	49.1	51.6	53.0	
企業動向関連	46.4	44.0	42.9	52.4	47.0	50.0	44.0	40.5	44.6	44.6	50.0	50.6	53.0	46.4	
雇用関連(参考)	54.5	60.2	53.4	56.8	51.1	45.5	46.6	43.2	45.5	48.9	47.7	51.1	50.0	51.1	

#### (2) 先行き判断D I

	26年										27年				
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	
東北先行き	47.8	52.3	52.5	51.0	49.0	47.8	43.9	39.0	42.7	48.1	50.7	51.0	50.6	52.0	
家計動向関連	48.1	51.7	52.4	50.3	49.7	47.9	43.5	38.1	41.8	47.3	51.0	51.2	50.7	52.8	
企業動向関連	44.0	52.4	53.0	52.4	46.4	51.2	45.2	40.5	44.6	51.8	50.0	49.4	51.2	50.0	
雇用関連(参考)	53.4	55.7	52.3	52.3	50.0	40.9	44.3	42.0	45.5	46.6	50.0	52.3	48.9	51.1	

※D I (Diffusion Index) について…50 を基準とし、50 を超えると景気が良い方向にあることを示す。

### ■調査の概要

調査期間 平成 27 年 5 月 25 日～31 日

回答者数 208/210 名、回答率 99.0%(全国 1,848/2,050 名、90.1%)

以上

<お問い合わせ先>

公益財団法人 東北活性化研究センター (担当: 佐藤(健))

〒980-0021 仙台市青葉区中央2-9-10

TEL : 022-225-1426 FAX : 022-225-0082

## <別 紙>

### ■特徴的と思われる判断理由（ウォッチャーのコメントから抜粋）

#### （1）現状判断理由

##### ○「やや良くなっている」

（コンビニ）…前年の消費税増税後の反動減による売上の落ち込みの影響もあるが、コーヒーやドーナツなどのカウンター商品のけん引により、来客数の前年比が3か月前と比較して5ポイント増加している。

（家電量販店）…前年は消費税増税前の駆け込み需要による反動減があったため、前年比がかなり伸びている状況である。テレビは前年比140%と売上の伸びが継続しており、エアコンは一昨年との比較でも前年比120%となっている。また、春から白物家電の単価が大分高くなってきており、客からは景気が良くなっている様子が見え始める。

（高級レストラン）…3か月前と比べてかなり業績が良くなってきている。特に中国料理やその他専門店では、前年比110～113%の売上となっている。

（都市型ホテル）…ここ数か月は、予約状況は良いもののフリー客の動きがあまり良くない状態が続いていたが、今月は、予約状況に加えてフリー客の来客数も増加している。結果として、来客数の前年比が大幅に伸びており、売上も大幅に増加している。

（リフォーム業）…5月は受付件数が増加しており、消費税増税以降初めて前年実績を上回っている。

（建設業）…年度をまたいで発注された公共工事の受注者が確定してきている。

（アウトソーシング企業）…今年度に入ってから、全体として価格を下げなくても良くなっている。

##### ○「変わらない」

（医薬品販売店）…3か月前と比較して来客数が1割ほど落ちこんでいるものの、客単価が上昇しており、1日の平均売上に変化はない。ただし、ここにきて客からは節約志向がみられるようになってきている。

（百貨店）…カード会員への施策展開を実施したことにより、化粧品などを中心に売上は前年比で相応に推移している。しかし、日によって変動が大きく、本質的に消費動向が改善しているとはいえない状況である。

（スーパー）…平均1品単価の前年比が5%上昇しており、来客数も前年を上回るなど、前年の消費税増税の影響がやや薄れつつあるように見受けられる。ただし、買上点数は依然として伸びの鈍い状態である。

（乗用車販売店）…新車が発売されたものの、売行きに以前のような勢いがみられない。また、新規の来客数も決して多くはない。

（酒類専門店）…店頭では、売れ筋が量販商品から純米吟醸や純米酒などに移行してきている。また、飲食店では地元の酒が根強いものの、徐々に純米酒以上の酒が浸透してきており、数字としても表れつつある。

（一般レストラン）…低価格メニューを廃止したため、売上、客単価は上昇しているが、来客数は若干減少している。

（観光型ホテル）…旅行のスタイルが団体旅行から個人旅行へと変化して観光バスの利用者が激減しており、来客数が伸び悩んでいる。また、個人旅行では多少宿泊料が高くなっても、その他の館内消費が伸びないため、総売上は停滞気味である。更に、客層も高齢者が全体の半数を占めている。

（旅行代理店）…テロの影響が長期にわたっており、海外旅行の販売量が落ち込んでいる、その分を国内旅行で埋めており、状況としてはほぼ変わらない。

（通信会社）…ゴールデンウィークが終わって客の購買意欲も落ち着いてきており、新規加入者数が伸び悩んでいる。全国的に格安のスマホなどが話題になっているが、地方ではまだまだ大手キャリアの利用者が中心に進んでいる。当社も新規事業として準備を進めているが、反応はあまり良くない。

（遊園地）…ゴールデンウィークを始め良い天候が続いており、落ち込んでいた前年よりは良くなっているものの、県内水族館の閉演イベントの影響が見受けられる。

(住宅販売会社) …建築が予定されている土地を取得できたことにより商業物件は順調であるが、住宅の受注量に伸びがみられない。

(食料品製造業) …ゴールデンウィーク中の動きが良かったが、それ以降は良くない状況である。また、出店している駅構内の売場が改装中であり、休業している分の落ち込みも大きい。

(電気機械器具製造業) …半導体製品の受注量、販売量の動きに大きな変化はなく、以前からの良い状態が継続している。

(職業安定所) …新規求人数は2か月連続で前年同月を下回っている。このように求人は高止まり状態が続いているが、正社員求人が全体の46%で、非正規求人の割合が過半数を占めている。

## ○「やや悪くなっている」

(衣料品専門店) …暑い日が続いているため、Tシャツやシャツブラウスなどの比較的単価の低い商品が売上の中心となっており、単価が前年より10%ほど落ち込んでいる。

(住関連専門店) …耐久消費財である家具を扱っている。シーズンが終了しており販売量が伸びていない。また、来客数も減少している。

(タクシー運転手) …特に夜間の客が減少している。街中は夜中の12時を過ぎるとゴーストタウンのようになっている。

(農林水産業) …燃料価格が最近再び値上がりに転じている。

(出版・印刷・同関連産業) …印刷業界は、ゴールデンウィーク後から全体的に仕事が止まっている様子である。

(一般機械器具製造業) …受注状況は、横ばいもしくはやや減少しており、回復の兆しがみえていない。

(飲食料品卸売業) …上旬からの出荷量の伸び悩みが、そのまま月末まで継続している。特にボリュームの大きいスーパー、コンビニ向けの出荷が不調に終わったことが大きな要因である。

(新聞社[求人広告]) …若者の人口減少に加えて、首都圏の大企業を中心とする求人増加により、地元中小企業の人員確保は厳しさを増している。採用活動の不振は企業の成長と地域経済発展の足かせとなっている。

## (2) 先行き判断理由

### ○「やや良くなる」

(商店街) …7月1日より2割お得なプレミアム付き商品券が発行される。短期間ではあるものの、売上の増加が期待できるため、商店街としても集客増加の段取りを計画している。

(コンビニ) …限られたパイのなかで厳しい環境に置かれていることに変わりはない。しかし、大きな不安要素もなく、夏に向けて売上は増加していくとみている。

(家電量販店) …プレミアム付き商品券の需要に期待している。

(美容室) …オーガニックシャンプーなどの髪や体に優しい商品の販売が好調であり、必要なもの、価値を感じるものに対する消費は上向いている。

(食料品製造業) …小売などが販売量を伸ばしている。また、株価の上昇により消費者マインドも上昇している。

(輸送業) …販売量は順調に推移している。円安の進行と原油価格の値上がりが気かりではあるが、急激な変化さえなければ、今後も期待できるとみている。

(広告代理店) …徐々にではあるが、得意先のマーケティング活動に動きが出てきている。

(人材派遣会社) …就職活動中の学生の様子からは、企業が積極的に採用数を取っている様子がうかがえる。今後の景気に良い影響を与えるのではないかとみている。

## ○「変わらない」

(百貨店) …消費税増税の影響は少しずつ和らいでいるが、ベースアップや賞与改善の話題が少ないなか、当面は現状維持で推移するものとみている。プレミアム付き商品券の発売を一つのきっかけに、消費が喚起されて購買力の改善につながることを期待している。

(スーパー) …東北地方では賃上げ水準が低く夏季賞与も期待できない。反面、原材料費の高騰から食料品の値上げが少しずつ進んでおり、今後2～3か月で景気が良くなるような要因は見当たらない。

(衣料品専門店) …夏物衣料の最盛期となるが、Tシャツなどの必需品が売上の中心になるため、単価が上昇せず、来客数も増える要素が無いため、厳しい状況は継続するとみている。

(ガソリンスタンド) …様々な復興イベントなどが行われているものの、実際の販売量には直結していない。しかし、大きな減少要因も無いことから、状況は変わらないとみている。

(土石製品製造販売) …この先数か月間は、冬場に除雪作業で傷んだ道路の修復工事が多い。景気を左右するような大きな工事はまだ無い状態である。

(電気機械器具製造業) …パソコンの需要が低下していると言われているが、エレクトロニクス全体としては需要が低下することはなく、その恩恵を受けて今後も良い状態が継続するとみている。

(職業安定所) …人手不足分野である建設業、製造業や、特に水産加工業、介護医療関係の求人が多く、求人の高止まり状態が続いている。人材の確保が思うように進まない状況で業績を伸ばしていくのは難しい。

## ○「やや悪くなる」

(高級レストラン) …選挙などが絡んでくる時期であり、外食の需要が冷え込むことを懸念している。

(一般レストラン) …5～6月の予約状況を見ると、やや悪くなっている。

(繊維工業) …購買力の回復が見込めない。

(建設業) …東北における集中復興期間の最終年度を迎えたが、公表された新規案件の発注見通しが思いのほか少なく、予想を下回っている。

(新聞社[求人広告]) …東京オリンピックへの景気感で、東京一極集中が顕著になりつつある。その影響からの人件費の高騰により、被災地では復興業種に人が集まらなくなっている。これからが復興の正念場であるが、被災地復興の遅れから、景気がまた悪くなるのではないかとの懸念がある。

東北地域に関する解説は、当センターの責任でまとめたものです。

以 上